

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人SUNクラブひまわり 放課後等デイサービス事業所なかま		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 10日 ~ 令和8年 2月 27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 16人	(回答者数)	14人
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 2日 ~ 令和8年 3月 2日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9人	(回答者数)	9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 6日 ~ 令和8年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・10人定員のため、子ども一人ひとりにていねいに関わることができること。	・思春期真っただ中のお子さんたちであり、体も大きく、力も強く、気持ちの表現の仕方が上手でないお子さんもいらっしゃいます。一括りにせず、1人1人に向き合えるような雰囲気を作っています。 ・子ども一人ひとりの強い特性や発達段階、発達過程から見られる行動に対して、寄り添ったり、あえて距離を置いたり、じっくり話をしたり、じっくり関わるようにしています。今子どもが求めていること、どんな支援が必要か見極めながら、毎日を取り組んでいます。できるだけいねいな支援を意識しています。	・これからも継続していきたいところです。 ・必要に応じて、保護者の方もしっかりやりとりをしながら、お子さんにとって必要なことを一緒に考えていきたいと思えます。
2	・満足度の項目は、比較的高評価をいただけていました。また安心感や満足感を子どもたちに感じてもらえることはうれしいです。	・多感な時期の子どもたちなので、できるだけ職員はゆったり構えるようにしており、子どもたちに威圧感を与えない雰囲気作りをしています。 ・子どもたちの意見を聞くことも多く(活動内容や日常的な動きの中でもどうしたいかなど)、自分の気持ちを尊重されている気持ちは感じていただけているかもしれません。	・これからも継続していきたいところです。 ・子どもたちは安心して通っていただけていたこと、保護者の方々の支援の満足度も高かったのととてもうれしいです。ここで満足せずに、お子さんや保護者の方々のご意見に耳を傾けて、取り組みに活かしていきたいと思えます。
3	・活動の中で、昼食クッキングやおやつクッキングを多く取り組んだり、自分たちで歩いて、買いに行くことも多くあります。	・子どもたちの今後の自立の力につなげたり、作って食べる楽しみにつなげる目的で、土曜日や長期休暇には、「クッキング」を行います。一人ひとりの力を見ながら、任せたり、介助をしたりしながら取り組んでいます。今年は、少人数のグループで役割分担を自分たちでして、1つの料理を作り上げることに何度も取り組みました。 ・自分たちで近くのスーパーや弁当屋に歩いていき、自分が食べるものは自分で調達することを目指しています。お店では、予算内で自分が食べたい物を選ぶことや好きなものを食べられる幸せを感じる感覚も大事にしています。 ・保護者の方の負担軽減の目的もあります。	・子どもたちが毎回楽しみにしている活動です。継続しながら、子どもたちの自立に向けたスキルアップや選択できることの喜びを感じたり、自分形成の時間にしていきたいと思えます。
4	・活動内でよく歩きます。スーパーやイベントなど、30～40分かければ行ける場所は、歩いて行動しています。	・将来、車や交通機関の活用が難しいお子さんも多いので、よく歩いて行動しています。交通ルールを守りながら、公共の場所(通るところすべて)であることも意識しながら歩いてもらいます(大きな声や不安定な行動、知らない人に対する行動等も教えながら)。 ・思春期のお子さんたちの体力発散と体力作りの意味もあります。 ・経験を重ねていくうちに、危険もなく、黙々と歩けるようになっていきます。	・地道に継続していきたいと思えます。 ・体力発散や体力作りと言う意味で考えると、もう少しハードな運動等も必要なお子さんもいます。職員のスキルや体力等も関係してきますが、何か考えていきたいところです。本人の意思確認も大事にしながら行います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域とのつながりが薄いところ。	・子どもたちにたくさんの経験をという思いから、地域の公共の資源を利用することは多いのですが、事業所のことをもっと知っていただきたいと思うことがあります。	・地域の方になかま事業所にも来ていただけるような取り組みもしたいと考えています。
2	・家族支援の不十分さ。 高校卒業後の就労先に関して。	・卒業後の就労先を悩まれる保護者が多い中、話をお聞きするだけでアドバイスなどが上手くできていないことを感じています。 ・親子共に「学校」の存在が大きくなり、学校の面談等で家族支援もいただいている印象があるため(保護者の方の話から)、遠慮をしている部分もあります。	・ご家族の話をていねいに聞き取っていき、必要な支援は何か考えていきたいです。 ・特に高校生に関しては、卒業後の就労先に悩まれる保護者も多くおられるので、学校との連携も必要になってくるかと考えています。
3	・活動スペースの確保。	・本人から体を動かしたい希望があったり、ご家族からも希望が多くあります。室内での運動には限界があります。	・庭や近くの公園を利用して、体を大きく動かせる工夫は継続していきます。